

キウイフルーツかいよう病に対する有効な防除法

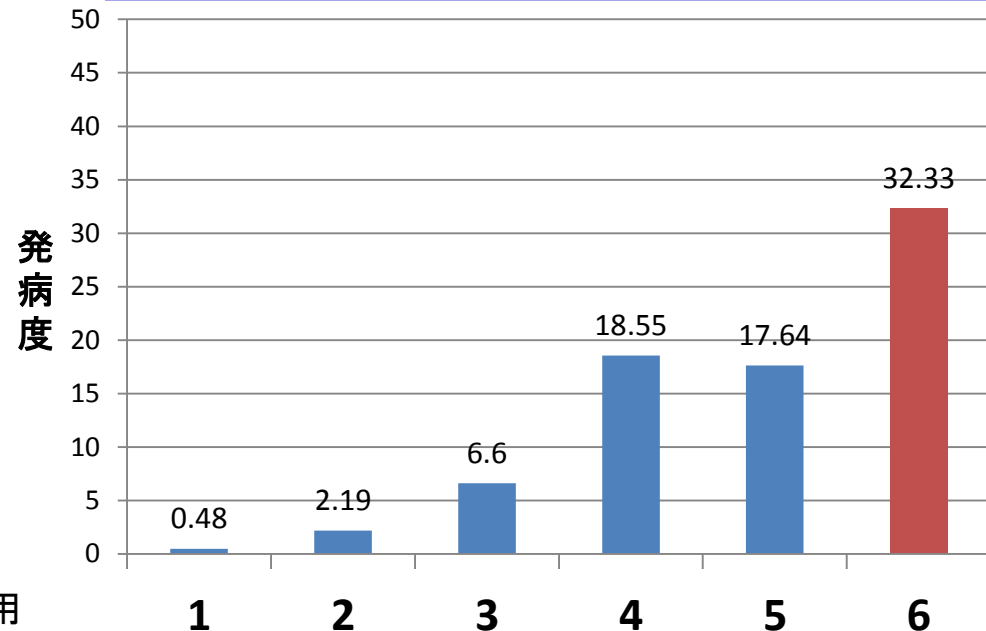
県内でのキウイフルーツかいよう病(Psa1系統)の発生圃場は拡大し、また新たにPsa3系統の発生により、今後被害の拡大が懸念される。

本病の対策は発病樹の早期発見・伐採であるが、今後周辺圃場(樹)への感染拡大を抑えるため主要な感染時期である収穫後から開花前までの薬剤による発病抑制効果を検討した。

試験区	防除時期(月日)					
	12/6	1/15	2/17	3/19	4/16	5/16
1	IC	IC	IC	IC	K3000	K3000
2	IC	—	IC	IC	K3000	K3000
3	—	IC	—	IC	K3000	K3000
4	—	—	—	IC	K3000	K3000
5	—	—	—	IC	K3000	AG
6	—	—	—	—	—	—

IC)ICホルト[®]-66D(50倍)、K3000)コサイド3000(2,000倍)アプロン加用
AG)アグレプト(1,000倍) 供試品種:ヘイワード(Psa1系統発生圃地)

かいよう病に対する発病抑制効果(2014)



収穫期からの休眠期にかけて、銅剤の定期的な散布に効果は高く、特に収穫後から毎月1回の散布は顕著に高かった。